

魅力ある学校づくり地域協議会通信

発行 魅力ある学校づくり地域協議会支援会議
宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課

1 平成 25 年度「第 1 回地域コーディネーター研修会」の報告について

- ・ 標記研修会(市生涯学習課、魅力ある学校づくり地域協議会支援会議共催)が、平成 25 年 6 月 7 日に市総合コミュニティセンターで、72 名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 当日は、主に新任者や経験の浅い地域コーディネーターを対象に、先輩地域コーディネーターによる活動事例紹介、活動の工夫を共有する情報交換会を通して、活動を円滑に進めるためのスキルを学ぶとともに、地域コーディネーターの役割を再確認したところです。

第 1 部 事業説明「魅力ある学校づくり地域協議会と地域コーディネーターの役割」

宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課 主任 横山靖夫

- 魅力ある学校づくり地域協議会の意義は、「ナナメの関係」による子育てを行うことにある。「ナナメの関係」とは、先生と生徒、親と子といった「タテの関係」、友達同士、兄弟といった「ヨコの関係」ではない、子どもと地域の大人、年の離れた友達との緩やかな人間関係であり、協議会では、「ナナメの関係」を生かして地域の子どもたちを多様な人間関係の中で心豊かでたくましく育むために話し合い、更にその話し合いを受けて地域ぐるみの子育てを実践し、その活動を通して大人も地域でのネットワークを広げ、自らの学びに結びつけることができる。
- 協議会の活動(①活力ある学校づくりへの参画、②地域の教育力を生かした学校教育の充実、③地域ぐるみでの児童生徒の健全育成・安全確保、④学校施設や地域の教育資源を生かした家庭・地域の教育力向上)と、活動ごとに地域コーディネーターが担う役割を再確認しました。

第 2 部 活動事例紹介

明保小学校 地域コーディネーター 大島和枝 氏 (地域を巻き込んだ活動と心がけていること)

- 通学路のアジサイ剪定や企業の参画も得たフォトコンテストの開催などを通して、幅広い地域の大人が学校や子どもの育ちに関心を持ち、携わり、交流するキッカケとなっている。
- 持続可能な活動とするため、将来の地域活動の担い手になる保護者を巻き込むことが重要である。入学式や参観日に時間を確保し、活動の意義を紹介しており、参加希望者は着実に増えている。
- 地域の実情により手法は異なるが、共通して言えることは、まずは学校と地域のことを良く知り、子どもにとって何が大切かを常に考えることが重要と考える。

清原東小学校 地域コーディネーター 黒澤多香子 氏 (学校支援ボランティアと学校のかかわり方)

- 魅力ある学校づくり地域協議会が設置される以前から、地域主体の学校支援ボランティアの活動が存在したため、地域コーディネーターが受け入れられるまでに時間を要した。お互いのできることに、できないことを役割分担することで円滑に活動できるようになった。
- 地域コーディネーターができることを探すには、学校に足を運び、顔を売ることが重要と考える。
- 設立当初は市の支援を期待していたが、自立した活動に移行するためには自分たちで考えて実行して行くことも重要と考える。



新田小学校 地域コーディネーター 武田純子 氏（地域学校園や放課後子ども教室との連携）

- 単独で開催していた行事を地域学校園で連携し共催することにより、行事の内容に深みが出た。地域学校園全体を対象に参加者を募ることにより、幅広く教育効果を波及することができ、また、中学生の参加協力が得られることにより、小学生はお兄さんお姉さんに見守られ、中学生は年下の子の面倒を見ることを通して、自らの育ちを見つめる機会になっている。
- 放課後子ども教室のコーディネーターを兼務することにより、学校や地域、子ども、保護者と顔なじみになり、連携を深めることができ、円滑な活動につながっている。
- コーディネーターの役割は「大変」との指摘もあるが、地域との繋がりを深められることが自分にとって大きなプラスになると信じている。

陽東中学校 地域コーディネーター 山田葉子 氏（地域コーディネーター活動を始める人へ）

- 中学校の場合、学校から学校支援ボランティアへの依頼は少ない傾向がある。その分、コーディネーターやボランティアから気がついたことを提案し、自ら活動を発掘している。
- 学校と地域が情報共有できるよう、地域学校園内の行事を掲載する地域コミュニティカレンダーを作成配付している。作成を通して、地域コーディネーター同士の連携も図れた。
- ボランティア活動は、「できる人が、できることを、できるときに」行うものであるが、地域コーディネーターはそこに少しだけ「ゆるい責任感」を加えるような意識で取り組んでもらいたい。「気負わず、構わず、自分の歩幅で楽しく」をモットーに、自分の身の丈にに応じて、地域の特色を生かした活動を、地域の人との関わりを楽しみながら活動している。

第3部 情報交換会

「地域コーディネーターの活動時に工夫していること」をテーマに、下記の3つの課題について、情報交換を行いました。グループ協議の中での主な意見・工夫を紹介します。

○活動に適したボランティア探し

- ・多くの人が参加できる活動時間の設定（土日活動、自宅ボランティアなど）
- ・地域学校園内での人材・情報の共有
- ・学校に限らず地域への顔出しも重要
- ・自治会回覧の活用、口コミも重要
- ・協議会委員の増員（人脈の広がり）



○保護者や地域住民へのPR

- ・PTA主体ではなく自治会も巻き込んだ委員構成の配慮（PTAとOB、地域とのバランス）
- ・毎年、年度当初にボランティア説明会を開催。学校便りの1コーナーで紹介
- ・地域コーディネーターの認知度を上げるため、顔写真つきの広報誌を発行
- ・地域の方が気軽に参加できる活動からPR（昔遊び、登下校の見守り など）

○多忙な教職員との打ち合わせ

- ・とにかく学校に足を運ぶ。職員室への顔出し。夕方の時間の活用。連絡ボックスの活用
- ・学校側の窓口を明確化（人事異動も見据えて複数体制が望ましい）

2 お知らせ

- 文部科学省フォーラムのご案内（「地域とともにある学校づくりの実現に向けて」）
全国8都市を会場に、学校と地域が一体となって子どもを育む、地域とともにある学校づくりの充実方策を協議するフォーラムを開催。本市では、10月11日に宇都宮市文化会館にて開催。詳しくは、文部科学省ホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/suishin/detail/1334950.htm）をご覧ください。
- 次回第2号では、市教育センターが学校教職員を対象に開催する「新任教頭研修」および「教職10年目研修」の様子などについてお知らせする予定です。